

<麦類の栽培ポイント>

1 莖立期直前の麦踏み

気象庁の1か月予報(2024年2月15日発表)によると、向こう1か月の平均気温は「高い」確率が60%、降水量は「多い」確率50%の予報が出されています。気温が高く推移しているため、令和5年産と同じように莖立期が早まる可能性があります(令和5年産莖立期は3月上旬頃)。ほ場で麦の生育を確認して、莖立期直前の麦踏みを行いましょう。莖立期直前の麦踏みは、穂揃いを良くし、成熟ムラのない倒伏に強い麦にする効果があります。

2 湿害対策

莖立期以降の湿害は、収量や品質の低下を招きます。降雨に備えて明渠の設置・溝さらいなどの排水対策をしっかりと行いましょう

3 雑草防除

雑草は収穫作業の支障になるだけでなく、種子が収穫物に混入すると品質低下の原因にもなります。雑草が発生している圃場では、莖立期までに防除を実施しましょう。雑草の生育が進んでいると、除草剤の効果が劣る場合があります。適切な時期に使用できるように、圃場をよく観察しましょう。

【防除農薬の例】

令和6年2月16日現在登録状況

農薬名	適用雑草名	作物名	使用時期	使用方法	使用回数
ハーモニー75DF	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	小麦	節間伸長前まで (広葉雑草は、穂ばらみ期まで(但し、収穫45日前まで))	全面散布 雑草茎葉散布 又は	1回
		大麦	節間伸長前まで		
エコパートフロアブル	一年生広葉雑草	小麦	節間伸長開始期まで(広葉雑草2~4葉期、ヤエムグラ2~6節期)但し、収穫45日前まで		2回 以内
		大麦	節間伸長開始期まで(広葉雑草2~4葉期)但し、収穫45日前まで		
バサグラン液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	小麦	生育期 但し収穫45日前まで		
		大麦	生育期 但し収穫90日前まで		

※農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。

4 赤かび病防除

赤かび病が発生すると出荷できなくなるので、必ず薬剤散布を行いましょう。

【防除農薬の例】

令和6年2月16日現在登録状況

農薬名	小麦		二条大麦	
	使用時期	使用回数	使用時期	使用回数
ミラビスフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	収穫14日前まで	2回以内
トップジンM水和剤	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降2回以内)	収穫30日前まで	3回以内 (出穂期以降1回以内)
トリフミン水和剤	収穫14日前まで	3回以内	収穫14日前まで	3回以内

※農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。

【赤かび病防除農薬の散布時期の例】

二条大麦 (ニューサチホゴールド、もち絹香)	防除適期:穂揃い期7~10日後(蒴殻抽出期) ポイント:登熟期間中に雨が nhiều 場合は、1回目の7~10日後に2回目の散布をしましょう。
小麦	防除適期:1回目・開花始め(おおむね出穂7日後)、2回目・1回目の20日後 ポイント:登熟期間中に雨が nhiều 場合は、3回目の散布を行いましょう。

「麦類無人ヘリ防除」・「麦類赤かび病防除薬剤」の取りまとめが行われますので、ご利用よろしくお願致します。

(裏面あり)

<水稲病害虫防除のポイント>

1 いもち病について

いもち病は稲が出穂するまでの期間、菌が葉に感染して病斑を形成し、出穂期以降も穂首や籾などに感染します。感染すると収量・品質に大きな被害をもたらします。曇天・少日照・やや低い気温（25℃くらい）・高湿度などの条件で感染し易くなります。

感染リスクを最小限にするために箱施用剤を有効に活用しましょう。

【防除農薬の例】

令和6年2月16日現在登録状況

	農薬名	分類	希釈倍率、散布量	使用時期	使用回数
箱施用剤	防人箱粒剤	殺虫殺菌	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5リットル)1箱当たり50g	播種時(覆土前)～移植当日	1回
	ルーチンアドスピノ箱粒剤			播種時(覆土前)～移植当日、又は播種前 高密度には種する場合:播種時(覆土前)～移植当日	1回
	フジワンプリンス粒剤			緑化期*～移植当日 (*:出芽後1～4日くらい)	1回
	トリプルキック箱粒剤			移植3日前～移植当日	1回

※農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。

※防人箱粒剤、ルーチンアドスピノ箱粒剤、フジワンプリンス粒剤は、ウンカ類にも登録があります。

2 イネ縞葉枯病について

縞葉枯病は、体内に病原ウイルスを持ったヒメトビウンカなどが稲の茎から吸汁をした時に感染します。発病株は生育不良となり、葉は細く巻いたまま垂れ下がり枯れてしまいます(ゆうれい症状)。そして、穂の出すくみ、不稔が発生し、大きな減収につながることもあります。

防除には、抵抗性品種(とちぎの星、あさひの夢、にじのきらめき、夢あおば、月の光)の作付けが有効です。縞葉枯病は発病後の治療はできません。罹病性品種(コシヒカリ)を作付けする場合は、防除効果のある箱施用剤の使用と本田防除の実施をしましょう。

【防除農薬の例】

令和6年2月16日現在登録状況

	農薬名	分類	希釈倍率、散布量	使用時期	使用回数
箱施用剤	フェルテラチェス箱粒剤	殺虫	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5リットル)1箱当たり50g	播種時(覆土前)～移植当日	1回
			高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5リットル)1箱当たり50～100g)	移植3日前～移植当日	
本田	トレボン粒剤		2～3kg/10a	収穫21日前まで	3回以内
	トレボン乳剤		1000～2000倍、60～150L/10a 300～600倍、25L/10a	収穫14日前まで	3回以内

※農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。